

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 5 日作成)

| | | |
|------------------------------|--|---|
| 小委員会名 | 民家小委員会 | 主 査 名：大場 修 就任年月：2003 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 建築歴史・意匠委員会 | 委員長名：吉田 鋼市 主 査 名： |
| 設 置 期 間 | 2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き) | <p>・(設置目的) 伝統的民家や町家、歴史的町並に関する研究や保存修復に関わり、学術的な立場からこれらの今日的課題を明らかにしつつ、課題解決に相応しい具体的な諸事業に取り組むことを目的としている。</p> <p>・(2006 年) 1. 同小委員会照会 HP の設置に向けた作業、/2. 民家・町並みニュース No.29 の編纂、同小委員会照会 HP において公開予定/3. 民家研究史を総括した上で、民家の保存、再生など今日的な諸課題に対する啓蒙・啓発を目的とする著書編集に向けての検討</p> | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | 委員公募の有無： | |
| | <p>01 主査 大場修 京都府立大学人間環境学部環境デザイン学科 02 幹事 平山育男 長岡造形大学造形学部環境デザイン学科 03 幹事 大野 敏 横浜国立大学工学部建設学科 04 委員 高橋恒夫 東北工業大学建築学科 05 委員 福井宇洋 福井大学工学部建築建設工学科 06 委員 上野勝久 文化庁文化財部建造物課 07 委員 片桐正夫 日本大学理工学部建築学科 08 委員 角 幸博 北大工学研究科都市環境工学専攻 09 委員 迫垣内裕 比治山大学短期大学部生活学科 10 委員 土本俊和 信州大学工学部社会開発工学科 11 委員 溝口正人 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 12 委員 中川 等 大阪産業大学工学部環境デザイン学科 13 委員 原田聡明 八代市教育委員会 14 委員 三浦要一 高知女子大学生生活科学部生活デザイン学科 15 委員 黒坂貴裕 奈良文化財研究所 都城発掘調査部</p> | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | | |
| 2006 年度予算 | 円 | ホームページ公開の有無：今年度末までに公開予定 委員会 HP アドレス： |

| 項 目 | 自己評価 |
|--------------------------------|---|
| 委員会開催数 | 2 回 (年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は 除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等) | |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | <p>1 . 小委員会 HP、今年度中の開設にむけて、最終調整を行っている</p> <p>2 . 編集は完了し、HP の開設と同時に、コンテンツとしてアップする</p> <p>3 . 著書の刊行には至らなかったが、各分野での検討は進んでいる。</p> |

| | |
|--------------------------|--|
| <p>委員会活動の問題点 ・課題</p> | <p>1．活動計画3の実現を当面の目標・課題として捉えさらに取り組みを強める。 2．民家再生などの学術面以外における今日の状況を、委員会活動の中に如何に取り込むか。 3．公開シンポジウムなどを継続的に取り組む必要がある。そのために、次年度、学会大会でのPD開催を決定し、同年度末から、次年度前期にかけて資料秀作成と並行して、検討を進めたい。</p> |
|--------------------------|--|

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。